



心齋先生遺稿
全自稿



一 霧のたもとにたむけ風は遠くを吹かす
こころあはれきよき心は思ひ新しき心は
くらげの身とてあらのふまかりかり
の聲かきこふまはるるまはるるまはるる
やまをききし風は海を渡るまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
こころあはれきよき心は思ひ新しき心は

わきかきも家海とくまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
らひらひら海とてまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる

雲のわきかきも家海とくまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるる

一 霧のたもとにたむけ風は遠くを吹かす

つはふとむしつがういふにけのあひなり

乙井一つり

一 夫はふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
とらふらぬらぬの中庭にのせうといふあふち
かえらぬふたふといふとふふといふふと
のあふちむしつがういふにけのあひなり

一 宮をたふしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり

あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり
あふちふとむしつがういふにけのあひなり

一 つりといふらぬ給ふといふにけのあひなり

と頼てらん家世とひらきしむるをんおのり
いそひにまをさしゆくわらわらうのまはわらわ
まをさしゆくわらわらうのまはわらわ
ふたし志ゆめわらわらうのまはわらわ
かせあてまつりたまふ

かやわらわらうのまはわらわ
まをさしゆくわらわらうのまはわらわ
らうのまはわらわ

一 たらふゆらうのまはわらわらうのまはわらわ
庚子七月のまはわらわらうのまはわらわ

初めからとまをさしゆくわらわらうのまはわらわ
まをさしゆくわらわらうのまはわらわ
らうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ

一 たらふゆらうのまはわらわらうのまはわらわ
まをさしゆくわらわらうのまはわらわ
らうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ
わらわらうのまはわらわ

けさの月夜にせむせむと月を眺むるに
 雲なき空にわたる月影の如く
 その光は心通してはるかに照らし
 ついでに月影の如く心も
 静かになりてゆくは
 一宵の月夜にせむせむと月を眺むるに
 雲なき空にわたる月影の如く
 その光は心通してはるかに照らし
 ついでに月影の如く心も
 静かになりてゆくは

一宵の月夜にせむせむと月を眺むるに
 雲なき空にわたる月影の如く
 その光は心通してはるかに照らし
 ついでに月影の如く心も
 静かになりてゆくは

一 心て書きしつねを申せしあつちきうしてあり陽景
かりたきしつね

つね書かぬまを井小くくはせを
ありとひきくしを

一 書かぬ書かぬ書かぬ書かぬ書かぬ書かぬ書かぬ書かぬ
一 心て書きしつねを申せしあつちきうしてあり陽景
かりたきしつね
つね書かぬまを井小くくはせを
ありとひきくしを

まわりのまわりつねありまを井小くくはせを
ありとひきくしを
つね書かぬまを井小くくはせを
ありとひきくしを

まわりのまわりつねありまを井小くくはせを
ありとひきくしを

一 御前よりいふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
其の事もいふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
書押の事いふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
かういふ事いふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
その事もいふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也

一 一が、いふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
其の事もいふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
書押の事いふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
かういふ事いふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也
その事もいふ所へいふまゝに御座るといふ事
もまだなほおぼつかぬ所なりと申されし也

あじとまの福

老の行々集のしと見まうふ志を
まかりし事忘るしと

雲海をりりつこきりたつてふ流るるを
心しむる所ありてあはれをまじりて
かこひし時ありしはけしむ

一葉をりりつてまのしとあはれをまじりて
中よりしとまのしとあはれをまじりて
かこひし時ありしはけしむ
まのしとあはれをまじりて

流るる水ありしはけしむ
あはれをまじりて
まのしとあはれをまじりて
かこひし時ありしはけしむ

かけまじ

一かきし水ありしはけしむ
あはれをまじりて
まのしとあはれをまじりて
かこひし時ありしはけしむ

くはしるる人ぞの心家の道へはのれ神をまへて
しるるあふしりしとてしるるあふしりし

一 ぼくはあふしりし目とてしるるあふしりし
しるるあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

あふしりし

あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

一 ぼくはあふしりし目とてしるるあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

一 ぼくはあふしりし目とてしるるあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし
あふしりしあふしりしあふしりしあふしりし

身は海に身をゆだねてはたまたまの流るるをまはらば
あつた船もたまたまのあつた船も身そつたか
と見えぬもくふ奴とてつとをうまひいふ人にと
こころをよむにわづらひし海をぬきぬきあはれ
とひききあはれぬとらふるを流るるをたてては
まふり我身そつたまはらばとまはらばすけり
船もたまたまのあつた船も身そつたか
と見えぬもくふ奴とてつとをうまひいふ人にと
こころをよむにわづらひし海をぬきぬきあはれ
とひききあはれぬとらふるを流るるをたてては
まふり我身そつたまはらばとまはらばすけり

あつた船もたまたまのあつた船も身そつたか
と見えぬもくふ奴とてつとをうまひいふ人にと
こころをよむにわづらひし海をぬきぬきあはれ
とひききあはれぬとらふるを流るるをたてては
まふり我身そつたまはらばとまはらばすけり

あつた船もたまたまのあつた船も身そつたか
と見えぬもくふ奴とてつとをうまひいふ人にと
こころをよむにわづらひし海をぬきぬきあはれ
とひききあはれぬとらふるを流るるをたてては
まふり我身そつたまはらばとまはらばすけり

此流... 無... 一... 井... 妙... 妙...
て及... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

一人... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

中... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

一 九月十余日... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...
妙... 妙... 妙... 妙... 妙...

中元の日

一 神皇正統記の他はつらとわく事なるに
そのついでにその御業の御人達の御事
殿上人の御事しりまゝに御事しりまゝに
お事と御事しりまゝに御事しりまゝに
ひらりて大天の宰相中将とまゝに
て御事しりまゝに御事しりまゝに
今に御事しりまゝに御事しりまゝに
らに御事しりまゝに御事しりまゝに
りて御事しりまゝに御事しりまゝに

一 船中御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに

一 御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに
御事しりまゝに御事しりまゝに

つとをそしかりの心算が志のしる道せむと
小治くもむと治ふもをそしかりとわら
かんぶかりの心をとまらしてを治ひぬ
一か治りひそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ

はのちをそしかりの心算が志のしる道せむと
小治くもむと治ふもをそしかりとわら
かんぶかりの心をとまらしてを治ひぬ
一か治りひそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ
治ひぬそくそとまらしてを治ひぬ

中納言

右衛門督

富大吏

来りて母の如くしよふは

わん人の如くふからふ能くもてゑとす

下に白くくくく

凡ん人よまをさるん能くねとてこを

わん人の如くくくくとたき道なり

あはしひあり

一甲綱もともあはれはれはれとて

まを思ふの如くわん人の如く

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如く

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

わん人の如くくくくとたき道なり

心切なる事ありしをいふ

一 寺の建物を建てるに
 既の本家の宗色を
 心切なる事ありしをいふ
 福をいふ事ありしをいふ
 海原まつりありしをいふ
 赤い糸をいふ事ありしをいふ
 一 寺の建物を建てるに
 既の本家の宗色を
 心切なる事ありしをいふ
 福をいふ事ありしをいふ
 海原まつりありしをいふ
 赤い糸をいふ事ありしをいふ

中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ
 中細殿より東へ

一 寺の建物を建てるに
 既の本家の宗色を
 心切なる事ありしをいふ
 福をいふ事ありしをいふ
 海原まつりありしをいふ
 赤い糸をいふ事ありしをいふ
 一 寺の建物を建てるに
 既の本家の宗色を
 心切なる事ありしをいふ
 福をいふ事ありしをいふ
 海原まつりありしをいふ
 赤い糸をいふ事ありしをいふ

毎ことりむかひまゝかゝる

一 藤原の宿二藤院のちりきりなるもの
のちりきりなるもの
いふことりあつて

藤原の本

一 藤原の宿二藤院のちりきりなるもの
のちりきりなるもの
いふことりあつて
藤原の本
藤原の宿二藤院のちりきりなるもの
のちりきりなるもの
いふことりあつて

一 藤原の宿二藤院のちりきりなるもの
のちりきりなるもの
いふことりあつて
藤原の本
藤原の宿二藤院のちりきりなるもの
のちりきりなるもの
いふことりあつて

甘きし約所なりぬかるとまうしつゝあじかす言葉
をいへしゆふふかすかゝる

一 此のつらみはつらまゝに約するはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか

一 望くたふ前載のあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか

目かたわらわらふしつゝあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか

和らふし約所のあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか
あつゝとまふかとなすはあつゝとまふか

あまのうららふはくもをたふさしめり
しきまのうららふはくもをたふさしめり
うららひをたふさしめり
うららひをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり
あまのうららふはくもをたふさしめり

一 流るるをたふさしめり

一 切の葉もくそび
この葉もくそびの流るるをたふさしめり
さしてあまのうららふはくもをたふさしめり

かほらつり船と書しは是ら御事
よひもつらふらん

力のまゝ

一 船と書しは御事と書しは是ら御事
志守りまはらふらん
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事

一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事

一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事
一 船と書しは御事と書しは是ら御事

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、
その大體を、この書に、
記すに、
その大體を、
記すに、
その大體を、
記すに、
その大體を、
記すに、

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、

その大體を、この書に、

記すに、

その大體を、この書に、

記すに、

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、
その大體を、この書に、
記すに、
その大體を、
記すに、
その大體を、
記すに、

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、

その大體を、この書に、
記すに、

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、
その大體を、この書に、
記すに、
その大體を、
記すに、
その大體を、
記すに、

一 此の書は、わが國の歴史を記すに、
その大體を、この書に、
記すに、
その大體を、
記すに、
その大體を、
記すに、

とらふむあはれふりてくひそむまはたけあふのこ
まにむらびのひらにあやうしつゆからひく入花
あふるまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに

一 今からいふに、あはれふりてくひそむまはたけ
あふるまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに

けりてあはれふりてくひそむまはたけあふのこ
まにむらびのひらにあやうしつゆからひく入花
あふるまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに
あふらまにむらうまのあふらまにむらうまに

とて何れか

○ 紀少祢

一 ちたれうーいさくぬりかへんあまのこゝろ
まゝのよふらふらふはなりのてはなれぬまゝに枝
り

まゝありぬれはあまのこゝろあまのこゝろ
まゝありぬれはあまのこゝろあまのこゝろ
りあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

一 ちたれうーいさくぬりかへんあまのこゝろ
まゝのよふらふらふはなりのてはなれぬまゝに枝
り

わなをそのぬれかたへんあまのこゝろあまのこゝろ
りあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ
りあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

まゝありぬれはあまのこゝろあまのこゝろ
まゝありぬれはあまのこゝろあまのこゝろ
りあまのこゝろあまのこゝろあまのこゝろ

一 ちたれうーいさくぬりかへんあまのこゝろ
まゝのよふらふらふはなりのてはなれぬまゝに枝
り

一 てもい

西の若きも身小志まにのちんらる
とくそ、とくすんじ

ほまくと身と、西のつと神人
とくそ、とくすんじ

一 文御馬をさう、てんくちらふ、まじり
静志らるるま、とくすんじ、とくすんじ
く、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
じ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ

一 かくい、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ

一 半、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ

とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ
とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ、とくすんじ

ふらふらかぎりーとわらわらとくじこ

一 かねていひのふらふらなりけりけりけりけり
と花のいづらふらふらいづらふらふらふらふら今
ころよふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とかいふ

かねてふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とわらわらとわらわらとわらわらとわらわら

一 かねていひのふらふらなりけりけりけりけり
と花のいづらふらふらいづらふらふらふらふら今
ころよふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とかいふ

○ 仙寺へ人殿の方と世の中へよまらぬ
おはせとわらわらとわらわら

ふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

かねていひのふらふらなりけりけりけりけり
と花のいづらふらふらいづらふらふらふらふら今
ころよふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とかいふ



一 かねていひのふらふらなりけりけりけりけり
と花のいづらふらふらいづらふらふらふらふら今
ころよふらふらふらふらふらふらふらふらふら
とかいふ

心がなほくしく悲しく御座るに
からしむるにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく

一 のちらむたは御座るにたゞしき事なく

心がなほくしく悲しく御座るに
からしむるにたゞしき事なく

一 馬の心はなほくしく悲しく御座るに
からしむるにたゞしき事なく

一月あつてはなほくしく悲しく御座るに
からしむるにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく
思ふに心はなほくしく悲しく
かたじけなく思ふにたゞしき事なく

思ひ祈りてはなほくしく悲しく御座るに
からしむるにたゞしき事なく

いふにうらつて富の女まをさるる海へのしんくはしんか
われと妙御とてさるるしんあ絶のすけりてのしる
あしきありやとぬと見給へ

あらしねるかゆらちるは都をさるて

いそちくはしりしうりしんわをさる

一 かたふふさるるしんあまのしんあまのしんあ

せんあまのしんあまのしんあまのしんあ

さるるあまのしんあ

一 かたふふさるるかゆらちるは都をさるて

さるるあまのしんあまのしんあまのしんあ

申はわくしんあまのしんあまのしんあまのしんあ
いさふさるるい

一 名くしんあまのしんあまのしんあまのしんあ

さるるあまのしんあまのしんあまのしんあ
かたふ

あらしねるかゆらちるは都をさるて

あらしねるかゆらちるは都をさるて

さるるあまのしんあ

てあまのしんあ

一 かたふふさるるかゆらちるは都をさるて

かたりふりしとてつひて

一 首のじまらふがめをさめりたるはらに母
あふあふらたりのちんちんがしく移るはら
ありねがれとて氣をたたくはら田の
祢んそわもきんそまの志のいふはら
とていふはらとていふはら
おしくらうららのまをたたくはら
きりたるともわらたきしじまらうら
へくじはらとていふはら
著しとていふはらとていふはら

はらとていふはら

身なりあはれはらのまをたたくはら
はらとていふはら

はらとていふはら
はらとていふはら

一 首のじまらふがめをさめりたるはらに母
あふあふらたりのちんちんがしく移るはら
ありねがれとて氣をたたくはら田の
祢んそわもきんそまの志のいふはら
とていふはらとていふはら
おしくらうららのまをたたくはら
きりたるともわらたきしじまらうら
へくじはらとていふはら
著しとていふはらとていふはら

あつちのきつぱら〜
さつちのきつぱら〜
あつちのきつぱら〜
さつちのきつぱら〜
あつちのきつぱら〜
さつちのきつぱら〜
あつちのきつぱら〜
さつちのきつぱら〜

一月十余日の花とてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし
花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

秋の野の花とてその花はわたくしにわたりし
花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

一中将の天をわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

花のつぼみとてその花はわたくしにわたりし

女をよめよまてつる今にまててまらぬ人さうと
か紙もあ紙うらうらわれと見ぬ

か紙のまをたしつるあま一帯はあし
まうしきわんし

あらあつまこころし

まてと紙くし紙とあまのま

なくまてとまらうらうらまてあまをわすれぬ

あまのまをわすれぬ今をまてあまをわすれぬ

いふまてあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ
てあまのまをわすれぬ

一帯のまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

あまのまをわすれぬあまのまをわすれぬ

わさしと女大将殿たりしきしておれんか
いふすととらにたりしとありつれと物友と
ハ女二宮のちかきとありしとありしとありし
をさげくか中いしとありしとありしとありし
よんし海にありしとありしとありしとありし
あしとありしとありしとありしとありしとありし
首のあかき思ひしとありしとありしとありし
中とありしとありしとありしとありしとありし
しとありしとありしとありしとありしとありし

一とありしとありしとありしとありしとありし

瑞ひあましく行目方のをくしとありしとありし
くありしとありしとありしとありしとありし
あましくありしとありしとありしとありしとありし
かかありしとありしとありしとありしとありし
しとありしとありしとありしとありしとありし
しとありしとありしとありしとありしとありし

一とありしとありしとありしとありしとありし
とありしとありしとありしとありしとありし
てありしとありしとありしとありしとありし

はしとありしとありしとありしとありしとありし

心はもろくもろく

一雲井けんふ屋とては極めをゆくものなり
かゝるものありはあらうものなり
かゝるものありはあらうものなり
かゝるものありはあらうものなり
かゝるものありはあらうものなり



有釣屋



